

クモの世界をのぞいてみよう！



非常に目が細かく、レコード盤のような垂直円網を張るのは、ゲホウグモ（コガネグモ科）です。夜は糸を巧みに操りながら獲物を狙い、昼間は木の枝や幹にじっとして木のこぶのように擬態します。このように不思議でおもしろい「クモの世界」を一緒にのぞいてみましょう。

昆虫よりもおもしろい？ 不思議な生きもの『クモ』

みなさんは『クモ』についてどんなイメージを持っていますか。「恐い、気持ち悪い」など、大人・子どもを問わず、あまりよくないイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。

「クモは糸を巧みに操る、昆虫に負けないくらいおもしろい生きものなんですよ！」と話すのは、今回お話を伺った三重クモ談話会のみなさんです。県内の山間部や里山、田畑、河川、海岸などでクモの観察・調査などを続け、これまでに県内約500地点を調査してきました。

日本にいるクモは約1,500種、三重クモ談話会の調査によると、三重県では現在までに約570種のクモが生息しています。

昭和40年に津市美杉町の溪流で発見された新種のクモは「シノビグモ」と名付



シノビグモ（サシアシグモ科）山間の溪流や源流の湧き水付近、水しぶきがかかるような水際などのきわめて湿気の多い石の間に潜んでいます。

けられ、その特異な生態が注目されています。

太田さん「三重県は南北に長い地形をしているので、北方種と南方種の多様なクモがいて、おもしろいところです。」

そこで今回は三重クモ談話会のみなさんが、それぞれに撮影したクモの写真とともに、あまり知られていないクモの生態についてもお話を伺いました。

また、初夏に開催された「クモの観察会」へ参加してきましたのでそのようすをご紹介します。

三重クモ談話会

【お話を伺った人】

左 かい ぼつ けん じ
貝發 憲治さん
中 おお た さだ ひろ
太田 定浩さん
右 しお ざき てつ や
塩崎 哲哉さん



「三重県におけるクモ類の研究の発展と、会員相互の交流を図る」ことを目的に昭和48年に結成されました。

現在の会員数34名で、採集観察会や総会、研究会などの開催をはじめ、会誌の発行や調査を行っています。